



(萩)

萩城跡（外堀地区）の発掘調査は、都市計画街路整備事業に伴う事前調査として一九九七年から実施しており、二〇〇四年度調査は八年次にあたる。調査面積は二五〇〇㎡。今回調査を行なった六・七地区は外堀内に形成された町屋にあたり、町屋敷地跡・礎石建物・石垣・石列・井戸・土坑・埋甕・か

山口・萩城跡（外堀地区）

- 1 所在地 山口県萩市南片河町
- 2 調査期間 二〇〇四年（平16）五月～二〇〇五年三月
- 3 発掘機関 (財)山口県ひとづくり財団 山口県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 岩崎仁志・井川隆司ほか
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

六地区木器包含層

まど・胞衣埋納遺構などを検出した。木簡は、六地区から七地区にかけて広がる木器包含層から五点が出土した。この木器包含層は、外堀の澱みとみられ、漆器碗・下駄などの木器を含んだ有機物堆積層である。時期は、対応する遺構面から、一七世紀後半から一八世紀前半にかけてとみられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「＜三郎兵へくみ」

・「＜四斗二□入」 152×23×4 033

(2) 147)×(82)×9 081

(3) 「。松坂屋吉右衛門 す、のは、」 227×21×3 051

(4) 「八月吉松坂屋。」 308×(36)×9 081

七地区木器包含層

(5) ・「＜半沢善右衛門組直八右衛門」

・「＜上関才判大波の村」 154×25×4 033

(1)は上部左右に切り込みがあり、下端が尖る。樹種はクロベ。(2)は焼失部分が多い欠損品で、表面に鉄釘痕が認められる。樹種はスギ。(3)は上端は平坦で、下端は尖る。小さい穿孔がある。樹種はクロベ。(4)は上下両端とも平坦に加工され、下端付近に小さい穿孔がある。樹種はスギ。(5)は上端に切り込みがあり、下端は台形にカットしている。「上関才判大波の村」は、現在の山口県田布施町大波野に比定される。樹種はクロベ。(2)を除いた木簡は、人名、地名、数量などから荷札として使用されたとみられる。

なお、釈読にあたっては、山口県文書館の吉積久年氏、萩博物館の樋口尚樹氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)山口県ひとづくり財団 山口県埋蔵文化財センター『萩城跡(外堀地区)Ⅲ』(二〇〇六年)

(谷口哲一)

